

331 中枢性睡眠時無呼吸を伴う肥満患者における¹²³I-IMPによる局所脳血流量低下についての検討

山根光量、木原進士、篠原悦子、新井武志、毛受正和
中村 正、山下静也、竹村 芳、松沢佑次（阪大二内）
善積 透、青山 毅、山崎紘一（箕面市立放科）

肥満患者において睡眠時無呼吸が高頻度に合併するがその機序は明らかではない。当科入院中の肥満患者に睡眠時呼吸モニターを装着し中枢性ないし閉塞性睡眠時無呼吸症候群と診断された10名において¹²³I-IMPによる脳血流SPECTを施行、同時に持続動脈採血法にて局所脳血流量(rCBF)の定量化を行ない検討した。全脳での各関心領域におけるrCBFの平均値は、中枢性無呼吸例で41.7 ml/100g/min と閉塞性無呼吸例の54.9に比べ明らかに低下していた。中枢性睡眠時無呼吸患者において脳血流SPECTでrCBFの著明な低下を認めたことよりその発症機序に脳血流低下による中枢機能の低下が示唆された。